



かけはし

「歩く」ことは子供が成長する大切な時間



子供たちにとって成長するための糧は様々なところにあります。国語や算数等の学習だけではありません。休み時間や登下校、すべてが子供にとっては成長の糧となっています。荷物が
多い日、雨の日、寒い日など「車で送ってよ。」などとせがまれることがあるかもしれません。
しかし、子供の成長や自立を促すために、車で送ることが本当に目の前の子供のためになっ
ているのでしょうか。私は、「登下校を自分の足で歩かせる」ことは、子供たちの成長のためにと
ても大切だと考えています。もちろん、学区外の子、怪我や体調が思わしくない子、事情により
登校をしづる子は別な話です。

「歩育」という言葉があります。これは、歩くことで自然や社会とかかわり、身体や五感を通し
て子供たちの生きる力を育てるということです。歩かせることは、次の効果もあると考えます。
まず、体力が付きます。体力だけではなく、脳の活性化にもつながり、血液の循環がよくなっ
て、脳に栄養のある血液が流れ授業にも集中できます。また、道ばたに咲く草花、身体に感じる
季節ごとの風など四季の移り変わりを感じる感性も育ちます。そして、社会性も身に付きます。
地域の方、立哨の保護者への挨拶やかかわり、友達とのコミュニケーションを向上させること
ができます。さらには、耐性も身に付きます。子供にとって、この耐性は多くのことを吸収する
基盤となるはずです。6年間、自分の足で歩いた子は、それだけで心と身体が成長することと
思います。

不審者対策や大荒れの天候等で、安全確保のために車で送迎することは必要なときもありま
すが、日常的には、自らの足で登下校させることが子供の成長に欠かせない大切な時間だと考
えています。

早いもので2月です。3学期は駆け足で過ぎていきます。今月も全職員で一人一人の子供た
ちに最後までかかわってまいります。何か気になることがありましたら、いつでも学校に連絡、
または、お越しく下さい。どうぞよろしく願いいたします。